

一般社団法人 和乃絆

令和四年度

事業計画書

就労移行支援事業所マイパレット
自立支援教室ひだまりカフェ
就労定着サポート室あしたば

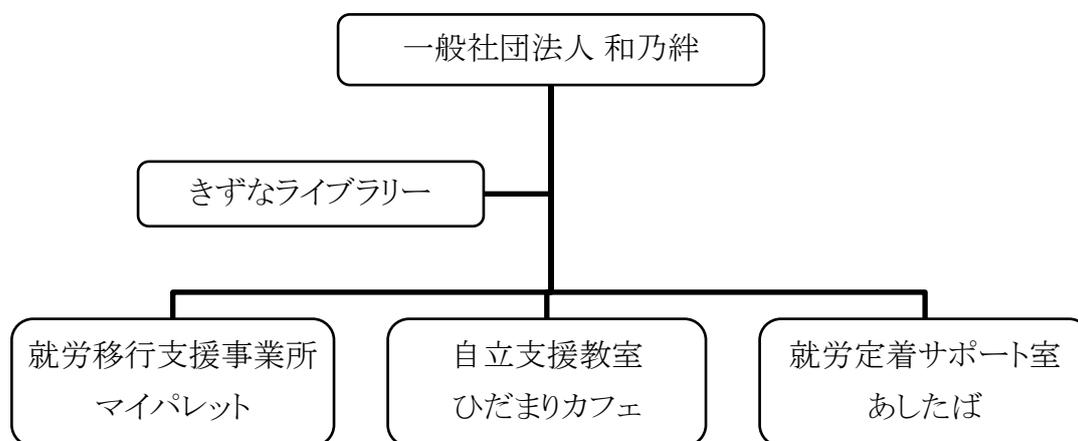
内 容

1 法人の指針・概要.....	2
2 事業所名及び所在地.....	3
3 従業者の人数・人員配置.....	3
4 契約利用者見込数.....	4
1) 就労移行支援事業所マイパレット.....	4
2) 自立支援教室ひだまりカフェ.....	4
3) 就労定着サポート室あしたば.....	5
5 事業計画.....	5
1) 就労移行支援事業所マイパレット.....	5
① 事業所内作業.....	5
② PC技能訓練.....	5
③ 施設外就労.....	6
④ 企業等実習・就労体験.....	6
⑤ 職業訓練.....	6
⑥ 事業所内活動.....	6
2) 自立支援教室ひだまりカフェ.....	7
① アウトリーチ(訪問活動).....	7
② 生活訓練.....	7
③ 事業所内作業.....	7
3) 就労定着サポート室あしたば.....	7
① 支援対象について.....	7
② 職場定着に向けて.....	8
③ ジョブコーチや他機関との連携.....	8
4) きずなライブラリー.....	8
① まちライブラリー.....	8
② おもちゃ図書館.....	8
③ 地域に開けた事業所作りについて.....	8

1 法人の指針・概要

運営理念 “自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく”

当法人の理念「自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく」の精神に則り、より具体的な行動、考え方の基準として制定したものです。役員、従業員一人ひとりが、この行動規範に掲げた趣旨を尊重し、一般社団法人 和乃絆の一員として、また社会人として、法令の遵守はもちろんのこと、良識ある行動をとり、社会的責任を果たしていくよう一層努力してまいります。



行動規範	I. 社会とのコミュニケーションの促進を図ります II. 個の力を最大限に発揮し、かつ尊重し合います III. 高い透明性と公正な姿勢に基づき行動します IV. 必要とされる事業を実施し、社会への責任を果たします
------	---

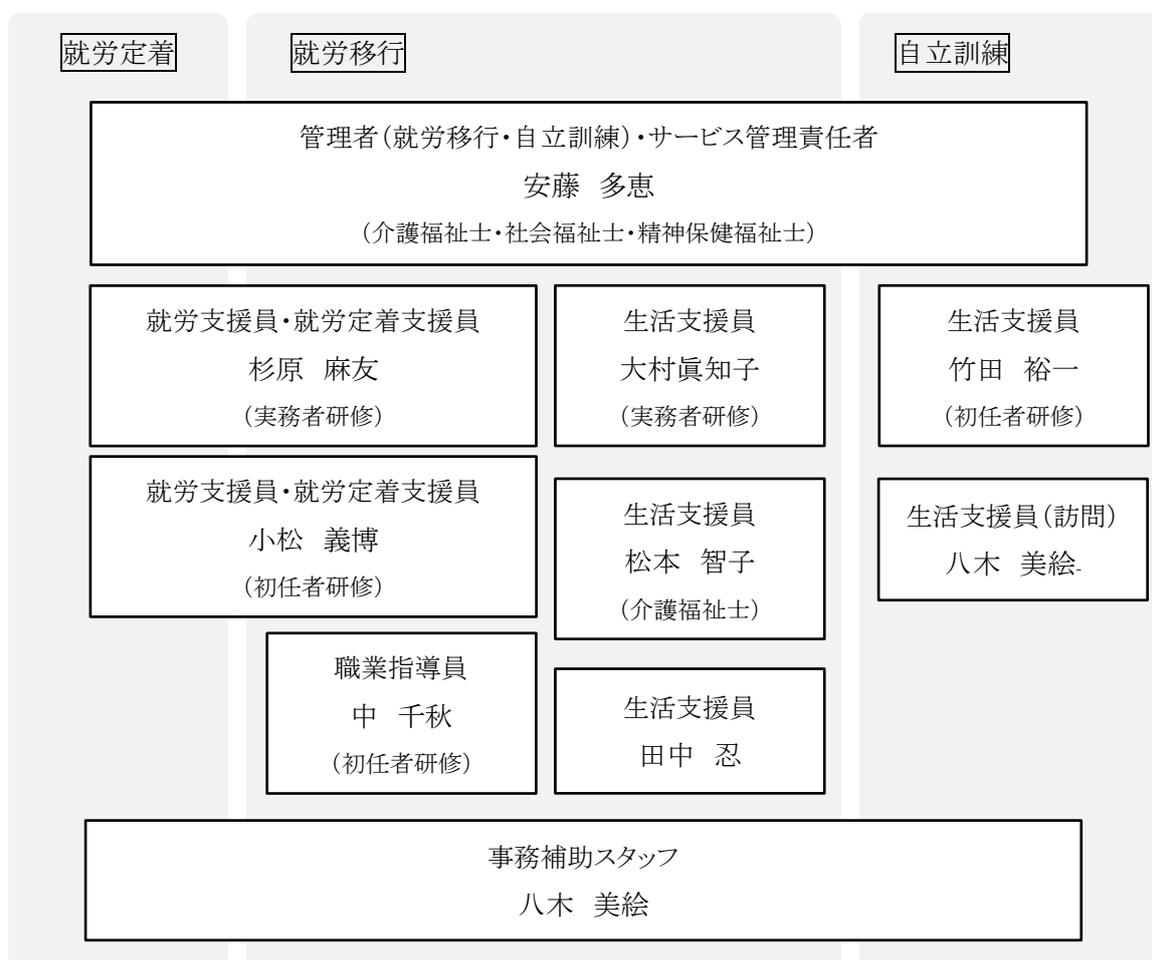
事業別理念	就労移行	就労移行支援事業所マイパレット 社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。できないこと、苦手なことに自ら対策を講じることができるような人材育成を目指します。
	自立訓練	自立支援教室ひだまりカフェ 自分以外の存在全てを広く「社会」と捉え、社会生活の第一歩を踏み出すために、必要な訓練を講じ、社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。
	就労定着	就労定着サポート室あしたば あしたばの葉は、「摘んでも明日には芽が出る」といわれるほど成長の早い植物、摘まれてもまた生えてくる、そんな明日への活力を支えるため支援します。

2 事業所名及び所在地

就労移行支援事業所マイパレット	就労移行支援	☎641-0014 和歌山市毛見1130-1 T・Tビル1階 電話:463-0064 FAX:463-0065
自立支援教室ひだまりカフェ	自立訓練(生活訓練)	
就労定着サポート室あしたば	就労定着支援	
きずなライブラリー	(地域交流)	

※令和3年6月1日より移転(内原726-13 → 毛見1130-1 T・Tビル1階)

3 従業者の人数・人員配置



常勤職員	5名	計 9名
非常勤職員	4名(1名は事務補助)	

4 契約利用者見込数

1) 就労移行支援事業所マイパレット

新規利用者見込数	利用定員	月平均利用者見込数
10名	13名	7名
一般就労者見込数		
新規開拓企業見込数	一般就労移行者見込数	半年継続見込数
10社	10名	8名

		令和2年度	令和3年度	令和4年度(見込)
就労移行支援事業所 マイパレット	新規利用者数	8名	13名	10名
	一般就労(就職)	2名	11名	10名
	ジョブコーチ	計22(7)名 ※()内は法人外ケース	計20(8)名 ※()内は法人外ケース	
	福祉的就労	0名	0名	0名

2) 自立支援教室ひだまりカフェ

新規利用者見込数	利用定員	月平均利用者見込数
3名	7名	5名

		令和2年度	令和3年度	令和4年度(見込)
自立支援教室 ひだまりカフェ	新規利用者数	6名	3名	5名
	一般就労	0名	2名	1名
	福祉的就労	3名	0名	3名
	他福祉サービス	0名	1名	0名
	途中退所	0名	0名	0名

3) 就労定着サポート室あしたば

新規利用者見込数	利用定員 (現時点での職員配置より算出)	月平均利用者見込数
3名	10名	6名

		令和2年度	令和3年度	令和4年度(見込)
あ し た ば 就 労 定 着	新規利用者数	2名	2名	3名
	就労継続中	4名	5名	6名
	途中離職	1名	0名	0名
	期間満了	0名	2名	2名

5 事業計画

1) 就労移行支援事業所マイパレット

① 事業所内作業

前年度はリモート支援の実施もあり、限定的ではありますが、DTP作業の一部を担っていただくこともありました。ただ、受注数が確保できないなどの理由から、主に取り組むのは、小久保工業所をはじめとする企業から内職軽作業を請け負うことを計画しています。また、前年度も取り組みの一部として実施を計画していたタイムカード集計や名刺管理ですが、個人情報保護の兼ね合いやこちらの期待する作業完了日に間に合わないといった課題克服が難しく、今年度の実施は計画しておりません。

協力先: 小久保工業所、NPO法人わたぼうしくらぶ、社会福祉法人きたば会、株式会社オージス総研(はじまるくん)相談支援 hana、宮本病院

② PC技能訓練

例年同様、商業高校などで採用されている「日本情報処理検定」の検定試験に取り組むとともに、前年度より開始している「日本漢字能力検定」の実施を行っていく方針です。訓練時間としては、主にWordとExcel操作の訓練を週2回、主に月・金の午後に実施します。また、検定試験前にはSSTの時間を割り当てて、試験対策を講じる予定にしています。

日本情報処理検定試験は年2回(7月、12月)、日本漢字能力検定は年1回(10月)に実施予定です。また、今年度のアビリンピック(障害者技能競技大会)にも、積極的な参加を進めて参ります。アビリンピックの参加に至っては、出場種目の希望を4月から取り、5～6月にかけて集中的に競技練習の時間を設けます。

ほかに、前年度の計画では至らない部分も多かったクラウドサービスを活用したメールや文面によるやり取りの演習については、対象ケースに応じて、実施頻度を支援計画に記載して定期的な訓練実施を図っていきます。

③ 施設外就労

例年と同様、平日の午前中は、紀三井寺公園の清掃業務を請負予定です。また、前年度から実施している株式会社ぼん家具での梱包業務の請負は、週2回(水曜日と金曜日、13:00～16:00)に実施予定です。前年度も課題であった備品購入に至るまで利用者さんが主体となって取り組める環境づくりについては、一部の利用者さんにのみ有効でしたが、全体として実施可能なシステム作りには至りませんでした。また、備品購入の頻度について、利用者さんによっては適度な量の予備を把握しにくく、個別性の原理に沿った人員配置を図る際に、どの利用者さんに対しても同様のスキルを求めることには疑問が上がっています。主体的に取り組む目標を掲げる時には、個々の利用者さんに沿った目標設定を都度協議して参りたいと考えております。

協力先: 紀の国はまゆう、株式会社ぼん家具

④ 企業等実習・就労体験

コロナ禍の影響も和らぎ、求人数も復活してきた印象があります。ごく体験的な実習の実施は難しい印象があり、まずは面接や書類選考をしたいと考える企業は多いものと見込まれます。求人のあるないに関わらず地域にある企業へのアプローチを行い、雇用前に十分な検討を持っていただくメリットを説明していきたいと考えています。就業・生活支援センターだけでなく、労働局やハローワークとの協働も積極的に図っていく方針です。

⑤ 職業訓練

オンライン研修システムに一部ですがワークサンプルを掲載するなど密度の濃い職業訓練の実施を図っていきたくと考えています。例年同様、職業センターや産業技術学院、ハローワークなど外部機関による講習や研修の機会を積極的に活用していくことにも取り組んでいきます。また、前年度充分に実施できなかったのですが、今年度は外部講師の活用をより一層図るべく、月に1回程度を目標に専門家による講習を設けていきたくと考えています。その際には、過去に外部講師を活用してきた時と同様に交通費(2,000円/日)で参加していただき、継続してご協力いただける方を募って参ります。

⑥ 事業所内活動

オンライン研修システムにこれまでの研修や講習の内容を掲載して、閲覧しやすいようにし、どの支援者でも、またどの利用者さんでも教材にアクセスしやすい環境を整備していきます。

コロナ禍で休止していた調理実習も令和3年11月から再開しており、実践的な活動を積極

的に設けていく予定です。その際には、職業生活に役立つことというよりも、生活基盤全体を支える手がかりになるような内容を実施していきたいと考えています。

2) 自立支援教室ひだまりカフェ

① アウトリーチ(訪問活動)

まず医療につなぐべきケースとの出会いをどのようにつないでいくべきか、また当事業所がどこまでアウトリーチを担っていけばよいのかといった課題は未整理のままです。ただ、支援が重なる形であれば取りこぼしはない、どのケースも支援の狭間に落ちてしまうことがないようにという考え方で、地域からの相談に対応していきたいと考えています。

② 生活訓練

午前中は例年同様に引き続き自身の昼食を調理する時間とし、その中でも個別に役割を設定し、それを全うしてもらえるように支援を講じていきます。茶話会など自分の思いを吐露できる空間作りですが、利用者さん同士で干渉し合い、安心できる環境に差し支えが出ないように配慮していきます。コロナ禍の影響で実施できなかった食品ロスなどの活用や農作業体験の実施も検討し、地域の中で当事業所の役割を見つけて行きたいと考えています。

前年度も生活訓練独自のプログラムは開発とちゅうであり、また、個別対応の多い利用者さんが多く、プログラムが個々に必要な状態が続いています。今年度は、自主製品の開発をはじめ、生活訓練独自で取り組む作業訓練の確保に取り組む計画です。

③ 事業所内作業

合同で請け負っている軽作業は継続していきます。丸紅基金から寄贈された移動販売用自転車を活用した販売や自主製品開発も、販売機会がコロナ禍によってなかったことで実施できておらず、今後はオンラインによる販売や展開のあり方も探っていきます。また、工賃が発生する作業に限定せず、エコキャップ回収や食品ロス回収など地域の中での自分の役割を意識できる内容を優先していきたいと考えています。

3) 就労定着サポート室あしたば

① 支援対象について

例年同様、全ての対象者に当事業の利用を勧めず、利用者負担が発生するケースであっても、月に2回以上の訪問や介入が必要なケース、あるいは本人や企業側の強い希望がある場合は、本人や関係者と協議する時間を設け、契約によらない場合はどこまでができることできないことかを説明し、理解を求める方針です。契約によらないフォローアップについては、原

則本人来所や余暇支援に限るものとします。また、昨年度は実施に至りませんでした。行政機関に入職された方の支援や他法人の利用を経て就職されたケースへの定着支援導入を積極的に図っていく計画です。

② 職場定着に向けて

昨年度同様、対面での支援だけでなく、電話やメール、SNSを活用した支援方法の拡充を図っていきます。リモートワーク、在宅勤務を行っている利用者さんにあっては、企業側の担当者とも対面以外にもつながる方法を確保しておく方針です。本人から困っていることSOS発信があった時には、本人同意を得てから関係機関と共有し、迅速な対応を心がけていきます。

③ ジョブコーチや他機関との連携

ジョブコーチの資格要件者の離職により、少なくとも1年間は新しいジョブコーチの配置は自法人では難しい状態です。また、今年度は行政関係の入職者も多く、就労定着支援の利用を優先的に行っていきたいと考えています。他法人のジョブコーチや就業・生活支援センターとも連携し、本人にとって最もメリットのある形で支援を講じていきます。

4) きずなライブラリー

① まちライブラリー

前年度もイベント開催が難しい状況が続きました。今年度こそ、丸紅基金より寄贈された移動販売用屋台を用いて、読み聞かせ会など地域に出向いていく活動を行うことができるよう計画していきます。可能な限りオフラインでの活動に挑戦していく予定です。

② おもちゃ図書館

まちライブラリーと同様、自立支援教室ひだまりカフェの活動として拡充していきたいと考えています。移転したこともあり、実際の場所を活用したイベントや空間づくりを図っていきます。LLブックの作成やデジタル教材やスライドなどの作成も検討していきますが、利用者さんの主体的な参加が期待できない場合には内容変更を試みる計画です。

③ 地域に開けた事業所作りについて

「はまゆう杯ソフトボール大会」を年2回(5月、10月)に実施する予定です。また、昨年度は実施できなかった「あいサポーター養成研修」「不登校ひきこもり相談会議」などの啓発活動を年1回ずつ開催し、毎月発達障害者当事者会「わかやまムーン」への会場提供や事務局を担う予定です。

以上